

V. 環境 Environment

私たちは、安心して暮らせる幸福な社会を
未来へ継承するため、環境負荷の低減につとめます。



環境保護方針

環境方針を以下の通り定め、事業を通して地球環境の維持・保全に積極的に取り組み、持続可能な社会の実現に努めます。

1. 環境に関わる法令や条例・協定などを遵守し、環境保全活動に努めます。
2. 環境目的及び目標を設定・実行し、定期的に活動の見直しを行うことで、継続的な改善を行います。
3. お客様の環境負荷低減に貢献できる物流サービスを開発し提供します。
4. 環境方針は文書化し、全従業員に周知徹底するとともにホームページで公開します。

合通トラスコでは、2004年に環境マネジメントシステムの国際規格である「ISO14001」を取得、事業活動における環境リスクを分析し、そのリスクを低減する取り組みを推進しています。



- ❖ 認証取得組織：12事業所
- ❖ 登録番号：0077031
- ❖ 認証機関：LRQAリミテッド

脱炭素社会実現に向けて

Scope 2022年度

カテゴリ	CO2 排出量 算出対象	対前年増減量 (2022-2021年)	2022年度	2021年度	2020年度	
Scope 1 (直接排出)	自社車輛 (トラック・連絡車・LPGフォークリフト) の使用に伴う排出量	-34.96	2,256.1	2,291.0	2,468.3	
Scope 2 (間接排出)	拠点及び自社車輛 (電気フォークリフト) の電力使用料の削減	22.28	469.5	447.2	462.9	
Scope 1 + Scope 2			2,725.6	2,738.2	2,931.2	
Scope 3 (サプライチェーン排出)			15,279.9	223.0	200.2	
内訳	1. 購入した製品・サービス	パートナー社によるトラック輸送に伴う排出量および外部倉庫	※1	13,792.9		
	2. 資本財	準備中	※1	764.3		
	3. Scope 1、Scope 2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	購入燃料 (軽油・ガソリン・電気・都市ガス・灯油・LPG)	※1	480.9		
	4. 輸送、配送 (上流)	Scope3_1に含む				
	5. 事業から出る廃棄物	産業廃棄に伴う排出量	※1	17.2		
	6. 出張		-0.06	9.5	9.6	3.1
	7. 雇用者の通勤		1.60	215.0	213.4	197.0
	8. リース資源 (上流)	Scope3_1,2に含む				
Scope 1 + Scope 2 + Scope 3		-11.13	18,005.4	2,961.2	3,131.4	

※1 2022年度より計測を開始。増減の算出は2023年度分より開始。

※ 排出量の算定は、「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位について (Ver.3.1)」(環境省) を使用。

※ Scope 3 カテゴリ9～15は対象外。

※ 算出期間は、4月から翌年3月までの12か月間。

中間目標

中期目標	2023年3月末時点累計	2022年	2020～2021年累計
2030年までに、2019年度比 648 t 削減			
【目標設定について】 地球温暖化対策計画の運輸部門の削減目標 (2030年度までに2013年度比 約3割削減) より17年間で30%。 2019年を起点とした場合、11年間で19.4% = 648 t 削減とした。	▲390 t	▲11 t	▲379 t

具体的な取り組み

実車率向上によるCO2排出量の削減

お客様へのカイゼン提案や交渉による輸送条件の変更、オペレーティングシステムの活用により、実車率を10%高めることで、2023年度12月までに187 t の削減を目指します。



フォークリフト：電気式への代替によるCO2排出量の削減

電気式のフォークリフトは、LPGやディーゼルタイプと比べCO2排出量を大幅に削減できる機種である一方、他2種に比べパワーが小さい機種でもあります。

2019年12月現在では、保有するリフトの39%がLPGタイプであり、その機能を基に設計した作業工程となっています。

電気式のパワーでも対応し得る作業工程へとカイゼンを行い、第一ステップとして、2023年12月までに、LPGタイプの占有率を39%から14%に低減することで、CO2排出量「340t-CO2（2019年比）」の削減を目指しています。



トラックのEcoドライブ実践によるCO2排出量の削減

地球温暖化防止に繋げるため、燃料消費量やCO2排出量を低減する「Ecoドライブ」に、10年以上取り組んでいます。アイドリングや急加速・急減速の禁止・ふんわりアクセルの実施・エアコンの適切使用・タイヤ空気圧の適正化など、日々、「Ecoドライブ」を実施しています。「Ecoドライブ」導入直後から定着期を経て、実績の安定化に繋がっています。環境負荷削減対策、事故リスク低減の双方から、継続的に「Ecoドライブ」に取り組んでまいります。

【車種別燃費の推移】

種別	(単位: km/ℓ)							
	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	対2016年
大型車	3.5	3.5	3.5	3.5	3.6	3.6	3.6	0.1
中型車	4.5	4.9	5.1	5.2	5.8	5.6	5.7	1.2
小型車	6.1	6.4	6.1	6.0	6.2	7.4	6.9	0.8

フォークリフトのEcoドライブ実践によるCO2排出量の削減

FORKERSの動態管理により、安全運転とともにEcoドライブ教育も実施しています。特に、LPGタイプのフォークリフトは、その効果を得やすくCO2排出量の低減に繋がっています。

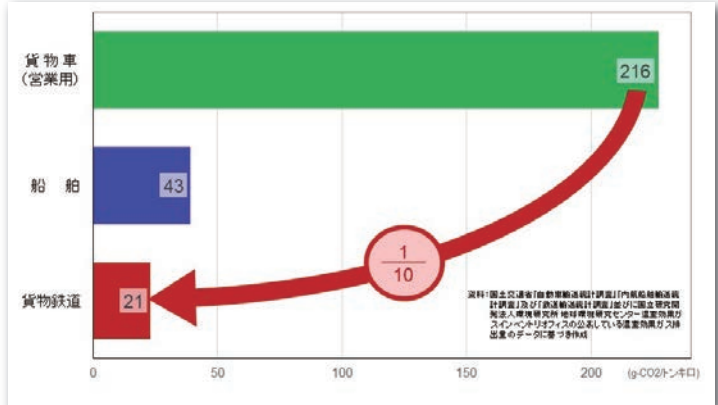
❖ 詳細については、P.8をご参照ください。

鉄道コンテナ輸送活用によるCO2削減

関係会社の株式会社合通ロジでは、1950年の創業以来70年以上、鉄道輸送サービスを展開しています。

国土交通省による物流の各輸送モードが1トンの荷物を1km運ぶ際に排出される二酸化炭素量（CO2）の図表です。貨物鉄道輸送の輸送単位あたりのCO2排出量は営業用トラックの約10分の1となり、トラックから貨物鉄道輸送への転換（「モーダルシフト」）は、CO2排出量の削減に効果的です。

【輸送機関別のCO2排出量原単位 モーダルシフトの効果】



【2022年度 株式会社合通ロジによる関西エリアからのコンテナ発送個数】

株式会社合通ロジによる「関西エリアの貨物7駅^{*}」からの鉄道コンテナの発送個数です。12ftコンテナ（積載重量5t）を中心に多くのお客様にご利用いただいております。環境負荷削減・SDGsへの取り組みとしても大きな役割を担っている輸送手段として、日々運用しています。

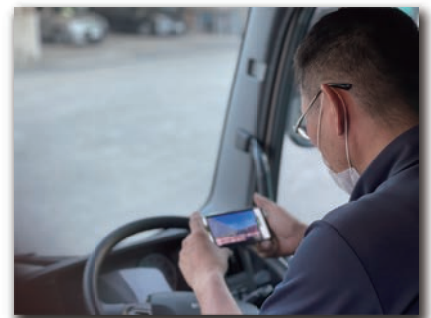


^{*}大阪（吹田貨物ターミナル駅・百済貨物ターミナル駅・大阪貨物ターミナル駅・安治川口駅）
兵庫（神戸貨物ターミナル駅・姫路貨物駅） ・和歌山

ペーパーレスによる環境負荷低減

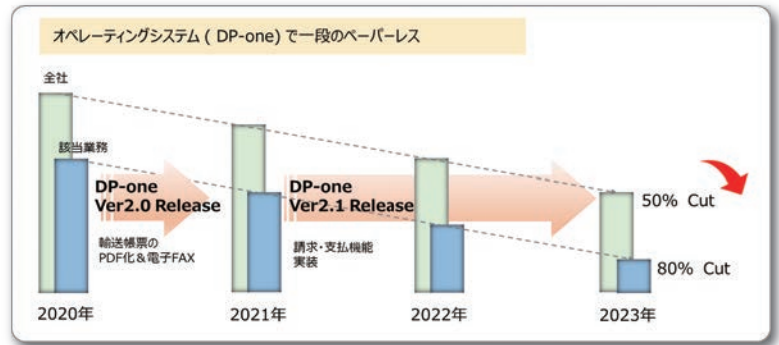
スマホ・タブレット端末の導入促進によるペーパーレス

全社員にスマートフォンやタブレットを支給することにより、会議資料・研修資料の電子化、社内SNSの導入による社内報の電子化対策を講じ、大幅なペーパーレス化を実現しました。また、FAXも電子データによる送受信に切り替え、ペーパーレス化を行っています。



輸送帳票の電子化によるペーパーレス

輸配送・センターオペレーションに関わる日々の業務では、多種多様な帳票が存在していました。私たちは、業務カイゼンはもちろんのこと、ペーパーレス化も目標に掲げ、輸送系システム「DP-one」バースコントロールシステム「BC-one」など、システム開発・導入を行っています。



社内書類の電子化によるペーパーレス

社内申請書類や、給与明細を電子化し、ペーパーレスを実現しました。また、官公庁関係の提出書類についても電子化することにより、移動に伴うCO2排出量の削減にも寄与しています。



持続可能な資材調達

資材調達 重点確認10項目

❖ 「資材調達時の仕入れ先への重点確認10項目」については、P.28をご参照ください。



エシカル消費の啓蒙

エシカル消費は、人や社会・環境に配慮した「倫理的消費」行動です。社内の啓蒙活動の一環として、エシカル消費について社員が学ぶことができる体制を整えました。自身の購買活動と環境や人権問題などの関係を知ることで、SDGsの取り組みを身近に感じてもらうことを目的としています。

